福島へ通い 土に触れる

東北復興日記 42

ヨウデザイン代表
伊藤陽子さん

五月二十五日、JKSKボランティアバスに乗り、震災後初めて福島へ行ってきました。

このボラバスはNPO法人のJKSKが、綿花栽培、コミュニティ電力などでいわき再生を目指す「おてんとSUN企業組合」と連携して実施するものです。二年目となった綿花栽培の歩みをより確かなものにしようと、年間を通じて農作業に参加するボランティアを募ります。

早朝六時五十分に新宿駅集合、二十五人が乗り込んだバスは、いわき市を目指し北上。道中、早稲田大学の岡田久典先生による再生可能エネルギーについてのミニ講義を受けながら到着。「いわきコミュニティ電力」の落成式=写真=に参列し、太陽光発電と綿花栽培のソーラーシェア実現へ向けて、綿の苗を記念定植しました。

その後バスは広野町の綿花畑へ。いよいよポット苗の定植です。「コットンは根に触れられるのをとても嫌がるので、決して根の周りの土を崩さないように」と説明を受けます。参加者たちは、軍手を外し素手になり、ポットから取り出した苗全体を両手でそっと包み込みつつ畝へ植えていきます。日が傾きかけたころ、畑全体に小さな苗が並びました。心地良く疲れた体に、綿花の成長を祈る気持ちがこみあげます。

収穫される綿を使った商品開発に、私もデザイナーとして加わります。私たちにとって最も親しみのある繊維である綿は、自然と人々の協働によってどのように作られるのか。福島で有機栽培する綿にどんな決意が込められているのか。現地へ通い、土に触れ、栽培から共に関わることで、デザインに命を吹き込みたいと考えています。

畑を後にしたボラバスの一行は、いわき湯本の老舗旅館「古滝屋」で汗を流し午後八時半に新宿駅に到着しました。このツアーは十一月の収穫祭まで全五回実施されます。

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。